

10月19日（日曜日）、下呂市の皇樹の杜（第57回全国植樹祭会場）において、第72回下呂市みどりの祭が開催されました。



この下呂市みどりの祭は、「健全で活力ある森林を育て次の世代に引き継ぐことの大切さを伝える」ことを目的に、多くの人に森林や木材に親しんでいただく場として毎年下呂市が中心となり開催しているものです。

また、今回のみどりの祭は、「ねんりんピック岐阜2025」のオリエンテーリング競技と同時開催され、会場は多くの来場者でにぎわいを見せました。

会場では、地元特産品を使用した飲食ブースや炭づくり体験、VRチェーンソー体験

など、様々なブースが出店されました。

岐阜森林管理署では、木のプレートに名前を彫ってキーホルダーにするネームプレートや、森の素材を使い自由に工作いただく木工クラフト、ミニイス作り（花台）体験の3つのアトラクションを用意し出展をしました。

自分で選んだ木のプレートに名前を彫るネームプレートには大人から子どもまで多くの方から注文があり、職員が専用の木彫機で木のプレートを掘ってる姿を興味深く観察し、中には写真撮影や動画撮影をしている来場者の方もいました。



木工クラフトでは自由な発想の作品が数多く見られ、岐阜森林管理署管内で集めた材料を使い楽しく工作をしている姿が見られました。

特に、大きな松ぼっくりが人気で、参加者は大きな松ぼっくりを使い次々と作品を完成させていました。ミニイス作り（花台）体験では、子どもと大人が苦戦しながらも協力し合い、一生懸命ミニイス作りに取り組み、完成品に満足していた様子でした。

なお、当日は曇空で時折小雨が降る天気でしたが、岐阜森林管理署のブースには100人近い来場者が訪れ、会場に来ていた下呂市長からも感謝のお言葉をいただきました。

作業スペースの確保や職員の配置等、来年に向けた課題もありましたが、来場された皆さんが笑顔で楽しんでいる様子が印象的でした。

今後も、地域行事等に積極的に参加する中で、岐阜森林管理署のPRに努めてまいりたいと考えています。

